

<b>基本政策 I</b>	<b>人間としての在り方生き方の軸をつくる</b>	達成 状況	<b>A</b>
---------------	---------------------------	----------	----------

現状と課題
<p>・急激に変化している社会の中で、学校から社会への移行が円滑に行われていない子ども・若者の実態が指摘されており、その背景には、コミュニケーション能力の不足、低い自己肯定感など、「社会的自立」に必要な能力や態度に関わる子どもたちの様々な課題が存在しています。</p> <p>・子どもたち一人ひとりが、将来直面するであろう様々な問題に柔軟かつたくましく対応できる能力や態度を子どもたちに身に付けさせることは、学校教育の責務であると言えます。</p> <p>・これまで取り組んできた本市の学校教育を各学校の「キャリア在り方生き方教育」の目標と、視点（「自分をつくる」「みんな一緒に生きている」「わたしたちのまち川崎」）から幅広く見直し、子どもの社会的自立に向けて必要な能力と態度を、成長段階に応じて系統的・計画的に育てる教育が求められています。</p>

政策目標
<p>「キャリア在り方生き方教育」をすべての学校で計画的に推進し、すべての子どもに、社会で自立して生きていくための基礎を育みます。</p>

主な取組成果
<p>「キャリア在り方生き方ノート」や手引きの活用方法について研修等を行うことにより周知を図るなど、教職員一人ひとりの意識の醸成を図るとともに、各学校への要請訪問研修によって計画策定を支援することなどにより、全ての学校において学校の実情に応じたキャリア在り方生き方教育に取り組むことができました。</p> <p>各学校でのキャリア在り方生き方教育の取組を、啓発用リーフレットや教育だよりかわさきで保護者等関係者に広報・啓発することにより、学校だけでなく、家庭や地域においてもキャリア在り方生き方教育に取り組めるよう、意識の共有を図りました。</p> <p>キャリア在り方生き方教育研究推進校を3校指定し、その先進的な取組を情報交換会や報告会で紹介することにより、すべての学校での情報共有を図りました。また、手引き、ノート、リーフレットの作成・配布や活用方法の周知など、全市をあげてキャリア在り方生き方教育に取り組んだことで、文部科学大臣からキャリア教育優良教育委員会として表彰されました。</p>

参考指標						
※ 基本政策の目標の達成度を評価する際に参考とするための数値であり、この数値のみをもって基本政策の成果とするものではありません。基本政策の評価は、事業の進捗状況等を踏まえて総合的に行います。						
指標名	実績値	H27	H28	H29	目標値(H29)	
自尊意識	小6	6.2% <small>(H26)</small>	6.7%	6.6%	5.8%	0%
	中3	10.0% <small>(H26)</small>	9.4%	9.7%	9.0%	0%
「自分にはよいところがあると思わない」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】						
将来に関する意識	小6	85.1% <small>(H26)</small>	84.6%	83.1%	83.9%	87%
	中3	69.7% <small>(H26)</small>	69.6%	67.9%	68.4%	72%
「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】						
「キャリア在り方生き方教育」の推進状況	0校 <small>(H26)</small>	29校	178校 <small>(全校)</small>	177校 <small>(全校)</small>	178校 <small>(全校)</small>	
「キャリア在り方生き方教育全体計画」作成校数【出典：川崎市教育委員会調べ】						

### 主な課題

各学校の実情に応じた研修の実施などにより、教員の意識の醸成を図りながら、各学校の特色を生かしたキャリア在り方生き方教育の取組を支援する必要があります。

子どもたちのキャリア発達を計画的・系統的に促すため、高等学校における「キャリア在り方生き方ノート」が必要とされています。高校生の発達の段階に応じたノートの作成や、活用方法について、検討していく必要があります。

将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は前年度より上昇しているものの、依然として全国平均より低い状況にあります。子どもたち一人ひとりが直面する諸課題に柔軟かつたくましく対応できる力を育て、自信を持って可能性に挑戦することができるよう、すべての教育活動を通じた「キャリア在り方生き方教育」が今後も必要です。

### 教育改革推進会議における意見内容

各学校での取組を充実させるため、研修会などの場で好事例の紹介や職員間の情報共有をしていくことが大切である。

「キャリア在り方生き方教育」の取組は、長期的に子どもを見守り、その教育的効果を捉えていく必要があるため、小学校、中学校、高等学校の継続的な実施が重要。

一人一人の社会的・職業的自立に向けた「キャリア教育」については新学習指導要領においても重要視されており、川崎では独自の視点を加えた上で、全市的に取り組んでいることがわかる。このような先進的な取組を今後も実施してほしい。

### 今後の取組の方向性

各学校での取組を充実させるため、教師用資料である「キャリア在り方生き方教育の手引き」の活用や研修会などを通じて、全校での取組を支援していきます。

高等学校における「キャリア在り方生き方ノート」を作成・配布し、各学校の実情に応じた活用ができるよう支援していきます。

「キャリア在り方生き方教育」については、「キャリア教育」に、共生・協働の精神を培う視点と、郷土を愛し、将来のふるさと川崎の担い手を育成する視点を加え、取り組んでいるところですが、引き続き、全ての市立学校で推進します。

**施策1**

**キャリア在り方生き方教育の推進**

**概要**

「キャリア在り方生き方教育」に関する研修の実施やリーフレットによる啓発、推進協力校における検証など、平成28年度からの全校実施に向けた取組を進めます。  
 教師用資料である「キャリア在り方生き方教育の手引き」を活用しながら、児童生徒のための「キャリア在り方生き方ノート」を作成し、「キャリア在り方生き方教育」を推進していきます。

事務事業名	キャリア在り方生き方教育推進事業		
担当課	教育改革推進担当	関係課	
事業の概要	将来の社会的自立に必要な能力や態度を育てていく教育を、平成28年度から全校で実践するため、手引の配布や研修により、「キャリア在り方生き方教育」についての理解を深めるとともに、指導体制の構築を図ります。 家庭との連携を意識したキャリア在り方生き方教育の推進を図ります。		
	<b>H27</b>	<b>H28</b>	<b>H29</b>
事業計画		キャリア在り方生き方教育の全校実施	→
	手引きを活用した各学校の実践の支援		→
	「キャリア在り方生き方ノート」作成・配布・活用	「キャリア在り方生き方ノート」増刷・配布・活用	→
	推進協力校での実践の支援と検証		
	保護者への啓発用リーフレットの作成・配布		→

**実施状況**

- 全校での実施が円滑に行われるよう、要請に応じて各学校で研修を行い指導助言を行うとともに（のべ35回）、全市担当者研修会を3回（5月、9月、2月）、センター研究会議の支援（10回）等を行いました。
- 研究推進校を3校設置し、年3回の情報交換会や校内研修等の支援を行う他、その取組や成果を報告会（2月）で広報しました。
- キャリア在り方生き方ノートの増刷と配布を行いました。
- 保護者など関係者への周知を図るため、リーフレットを活用して広報を行いました。また「宮前区教育を語るつどい」で講演を行い、参加者の啓発を図りました。

**課題と今後の取組**

- 学校における特色を生かした取組は改善と継続が必要であるため、各学校の実情に応じた研修を実施して対応を図ります。
- 児童生徒のキャリア形成は今後も重要であるため、引き続き全市での実施の推進に取り組みます。
- 系統的なキャリア在り方生き方教育の推進のためには高等学校用「キャリア在り方生き方ノート」も必要であるため、学校等と連携して作成します。
- 「かわさきパラムーブメント」等、本市の今日的教育課題や取組についての啓発を図り、理解と取組への協力を要請していきます。